



病院薬剤師業務の 種類・量・質の激変

医薬品と薬物療法の急激な進歩

- 分子標的薬や抗体薬の急速な開発と臨床使用
→治療の選択肢の拡大、未知の重篤な副作用発現の危険の増大(細胞の情報伝達系は類似)、医薬品費の急騰
市販後に有効性と安全性を担保することが重要
- 個々の患者に最適な医療を行う為に、より有効で安全な抗がん剤の組み合わせに関するプロトコールの設計と臨床使用が必要
- 遺伝子多型の人種差・個体差の重要性が認識された(イレッサ、ワーファリンの作用など)
- 重篤な副作用、薬害防止のための意識と体制作りの機運の高まり
(サリドマイド、血液製剤によるHIV 感染、C型肝炎ウイルス感染による薬害肝炎、イレッサなど抗がん薬による間質性肺炎)
- 後発医薬品への対応
- 個々の患者に最適な薬物治療に関与する薬剤師の必要性が増大